

2025年度 IPBESシンポジウム

ネイチャーポジティブ社会の実現に向けた ネクサス・アプローチ：

～ IPBES評価報告書を地域の視点で読み解く ～

私たちが自然から得ている水や食料などの恵みは、私たちの生存、健康そして豊かさの源泉です。しかしながら、自然の劣化は地球規模で急速に進んでいます。ミツバチのような花粉媒介生物が減少することにより農業生産量が減少したり、無理な食料増産のために水資源や肥沃な土壌が損なわれ、そのためにさらに食料生産量が減少したりしてしまうといった悪循環もみられます。また、気候変動の影響も懸念されていますが、自然エネルギーの生産のために、自然環境が損なわれるような「トレードオフ」の関係を生むこともあります。

昨年12月、IPBES¹第11回総会において「ネクサス評価報告書²」が採択されました。この報告書では、生物多様性、水、食料、健康と気候変動の間の複雑な相互関係の現状評価と将来予測を行い、個別の課題ごとに「縦割り」の対策を行うことの弊害を指摘しました。そのうえで、複数の課題に分野横断的に対応する「ネクサス・アプローチ」を提唱し、ネクサス・アプローチの展開には、ガバナンスや経済の変革を含む社会変革の必要性を指摘しました。この点については、ネクサス評価報告書と同時に採択された「社会変革評価報告書³」で詳しく述べられています。

このシンポジウムでは、冒頭、ネクサス評価報告書の作成に携わった専門家より、報告書の内容をわかりやすくご紹介頂きます。続いて、「ネクサス・アプローチ」や社会変革に関連する専門家や、地域で様々な取り組みを実践されている方々より話題提供して頂きます。話題提供では、まず、自然と私たち人間の健康との深い関係に注目した、自然セラピーに関する研究について、ご紹介頂きます。続いて、地域固有の相互関係にさまざまな角度から光を当てるため、宮城県南三陸町の現地から3名の方にご登壇頂きます。森・里・海といった自然とその恵みを得る形で行われている人の営み、そして地域での社会変革の取り組みについて活動内容をご紹介頂きます。

パネルディスカッションでは、こうした研究や地域での実践例を踏まえて、自然を守り、高めながらその恵みを享受し続けられるような社会の実現に向けた、ネクサス・アプローチとは何かについて参加者の皆様とともに考えます。

¹ 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム

² 正式名称は「生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価報告書」

³ 正式名称は「生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性 2050 ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価報告書」

2025年8月5日(火)
13:30～15:30

オンライン (Zoom ウェビナー形式)

参加無料、事前申込制となっております。
2025年8月3日(日)までに、
参加申し込みフォームよりお申込みください。

参加申し込みフォーム



https://iges-jp.zoom.us/webinar/register/WN_xEmm1S-yTGulYenYmABhQA

プログラム (敬称略、予定)

- 開会挨拶・趣旨説明
環境省
- 基調講演「IPBES ネクサス評価報告書からの主要メッセージ」
齊藤 修 (公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES)
生物多様性と生態系サービス領域プログラムディレクター・
東京大学未来ビジョン研究センター客員教授
- 話題提供
 - ①「自然セラピー：Nature on Prescription の観点から」
池井 晴美 千葉大学国際高等研究基幹(環境健康フィールド科学センター)
テニュアトラック准教授
 - ②「南三陸のいのちめぐるまちづくり」
太齋 彰浩 サステナビリティセンター代表理事・
東北大学生命科学研究科 客員教授
 - ③「カキ養殖 1/3 革命から10年」
後藤 伸弥 後藤海産・戸倉 Sea Boys リーダー
 - ④「森里海ひと、あたらしいつながりの歴史」
工藤 真弓 上山八幡宮(南三陸町) 禰宜
- パネルディスカッション
- パネリスト (五十音順)
池井 晴美
工藤 真弓
後藤 伸弥
齊藤 修
鈴木 渉 環境省自然環境局生物多様性戦略推進室長
太齋 彰浩
橋本 禅 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

登壇者プロフィール



いけい はるみ
池井 晴美

千葉大学国際高等研究基幹（環境健康フィールド科学センター）テニュアトラック准教授

自然セラピー学を専門とする。森林、木材、花き・観葉植物等の自然環境と自然由来の刺激が人に与える生理的リラックス効果の解明を目的とし、脳活動、自律神経活動、内分泌活動等の生理指標を用いた科学的データの蓄積を進めている。最近のトピックは、「個人差の解明」と「高ストレス者への適用」である。



くどう まゆみ
工藤 真弓
上山八幡宮 禰宜

宮城県南三陸町（旧志津川町）で鎌倉時代から続く上山八幡宮の25代目。南三陸を代表する神社の神職として、20年前の合併によって新たに南三陸町ができた際に、それまで別々の町民だった人々の心をひとつにまとめていくために、海と山がつながる町としてその中で人間の営みの価値を表現した町民憲章を起草。志津川地区まちづくり協議会の委員を務め、その議論を深めるための有志の勉強会の座長も務めている。



ごとう しんや
後藤 伸弥
後藤海産・戸倉 Sea Boys リーダー

宮城県南三陸町戸倉地区の漁師4人で結成された漁師グループ「戸倉Sea Boys」のリーダー。地元で愛情を込めて育てた海産物を、多くの方に知っていただきたいという思いで、「楽しく美味しい」体験を届けるため、交流イベントや漁場体験ツアーなどを開催。東日本大震災を機に一度漁業を離れるも、持続可能な漁業を推進する父を見て、再度漁師の道へ。生産物をより美味しく育て、鮮度よく届けるための試行錯誤を重ね、海の環境に配慮した活動にも積極的に協力。



さいとう おさむ
齊藤 修
(公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES) 生物多様性と生態系サービス領域プログラムディレクター・
東京大学未来ビジョン研究センター客員教授

日本の里山だけでなく、アジアからアフリカの農村地域の生態系サービスを対象として、社会経済変化と気候・生態系変動による影響評価、有効な生態系管理や適応策の提示、その社会実装に重点をおいた研究に取り組んでいる。IPBESには2012年の設立以前から専門家として関わっており、アジア・オセアニア地域評価 (2015-2018) と地球規模評価 (2016-2019) には主執筆者 (LA) として、ネクサス評価 (2022-2025) には統括執筆責任者 (CLA) として参画。



すずき わたる
鈴木 渉
環境省自然環境局生物多様性戦略推進室長

環境省自然環境計画課、野生生物課、生物多様性センター、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)、IPBES アジア・オセアニア地域アセスメント技術支援機関、生物多様性条約 (CBD) 事務局等の国際機関などの勤務を経て、2022年7月より現職。CBD 事務局では、生物多様性日本基金を通して開発途上国における能力開発の支援に携わった。現在は、CBD、IPBESなどの生物多様性に関する国際的枠組の実施等に、日本政府の立場で関わっている。



たがい あきひろ
太齋 彰浩
サステナビリティセンター代表理事・東北大学 生命科学研究科 客員教授

民間機関の研究者を経て、フィールド密着型の人材育成を志し、2000年に南三陸へ移住。箱もの施設再生で年間数千人の交流人口創出。東日本大震災後は、水産業の復興に奔走するとともに「循環型でレジリエントなまちづくり」を目指したバイオマス産業都市構想の実現に貢献。「いのちめぐるまち」を掲げる南三陸町の取り組みを支援するため2018年サステナビリティセンター設立。



はしもと しずか
橋本 禅
東京大学大学院農学生命科学研究科教授

専門はランドスケープ・プランニング、生態系サービス評価とシナリオ分析。東京大学大学院農学生命科学研究科で博士号取得。マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学大学院農学研究科、大学院地球環境学、東京大学大学院農学生命科学研究科 (准教授) を経て2024年より現職。IPBESアジア・オセアニア地域アセスメントおよび地球規模アセスメントの主執筆者 (LA) を務めたほか、2018年よりIPBES学際的専門家パネル (MEP) メンバー、2022年よりMEP共同議長を務める。

(五十音順)

(参考)

IPBES: 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム (Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)

IPBESは、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織です。2025年7月現在、IPBESには150カ国が参加しており、事務局はドイツのボンに置かれています。科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の4つの機能を柱とし、気候変動分野で同様の活動を進めるIPCCの例から、生物多様性版のIPCCと呼ばれることもあります。



IPBES Web サイト
<https://www.ipbes.net/>



環境省 Web サイト
<https://www.env.go.jp/nature/biodiversity/ipbes.html>

<連絡先>
環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性戦略推進室
(担当：齋藤・宇野)
メール：NBSAP@env.go.jp
代表：03-3581-3351 直通：03-5521-8275